

# ディスクロージャー資料

## 業務及び財産の状況に関する説明書類

平成 27 年度

(平成27年 4月1日 ~ 平成28年 3月31日)

 ベル少額短期保険株式会社

2016年(平成28年)7月31日

## 社長挨拶

当社は“手軽な掛金で葬儀費用資金を提供する”という事業目的で1984年に創業した「ベル共済」を前身とし、2008年に少額短期保険会社として再スタートを切った後も一貫して葬儀費用準備にお役に立つことを旗印として会社運営を行ってきました。2016年3月決算期においてはご契約者様に「安全と安心」を提供するうえで、保険事業を行う企業にとって最大の責務である「責任準備金の満額積立」を完遂すべく、2億1千万円を超える金額を負債計上致しました。これに伴い、単年度経常損益は赤字決算となりましたが、お客様に対する将来の備えは万全となり、保険事業者としての一応の発展段階に到達いたしました。

これからの当社ならびに株主・代理店各位並びに従業員の更なる発展と「お客様への一層のサービス向上」を企図して、新たなる「企業理念」の下に役員従業員全員が共通の認識をもって進んでまいります。

### 企業理念

これまでも、これからも100年に亘って

お客様からありがとうと言われる企業を目指します

株主・代理店様から良きパートナーと言われる企業を目指します

従業員が働いていて良かったと実感できる企業を目指します

これまでも、ひとえにステークホルダーの皆様方のご支援、ご協力により事業を継続することができましたが、今後も業績向上による信用の獲得だけに止まらず、全社員が「もっとちかくよりそい」「もっとふかくおもいを」を合言葉として行動を起こし、皆様方に満足いただき、深く信頼いただけるような会社を目指し、誠心誠意、日々精進致してまいります。今後とも『ベル少額短期保険株式会社』ならびに当社保険商品「千の風」に、より一層のご愛顧、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

**おきゃくさま・代理店さま(葬儀社)と**

**もっとちかく(よりそい)**

**もっとふかく(おもいを)**



平成28年7月吉日

ベル少額短期保険株式会社  
代表取締役 波多江 利光

1.当社の概況および組織に関する事項	
(1)会社概要.....	4
(2)会社の沿革.....	4
(3)経営の組織.....	5
(4)株式の状況.....	5
(5)役員の状況.....	6
(6)使用人の状況.....	6
2.当社の主要な業務の内容	
(1)取扱商品.....	7
(2)保険の募集方法について.....	7
(3)保険金等のお支払について.....	8
3.当社の主要な業務に関する事項	
(1)直近の事業年度(26年度)における事業の概況.....	9
(2)直近の3事業年度における主要な業務の状況を示す指標.....	10
(3)直近の2事業年度における業務の状況.....	10
(4)責任準備金の残高内訳.....	14
4.当社の運営に関する事項	
(1)リスク管理の体制.....	15
(2)法令遵守の態勢.....	15
(3)お客様対応.....	16
5.当社の直近2事業年度における財産の状況に関する事項	
(1)計算書類.....	17
(2)保険金等の支払能力の充実の状況.....	23
(3)有価証券または金銭の信託に関する取得価額または契約価額、時価及び評価損益.....	23
(4)公衆の縦覧に供する書類に関する会計監査人の監査の有無.....	23
(5)貸借対照表、損益計算書および株主資本等変動計算書に関する公認会計士または監査法人の 監査証明書の有無.....	23

## 1. 当社の概況および組織に関する事項

### (1) 会社概要

会社名 : ベル少額短期保険株式会社  
設立 : 昭和59年6月6日 (平成20年4月4日(株)ベル共済から商号変更)  
資本金 : 5,000万円  
構成 : 役員 5名、社員 11名 (平成28年3月31日現在)  
業務内容 : 少額短期保険業 《登録番号 福岡財務支局長(少額短期保険)第1号》  
所在地 : 福岡市博多区博多駅前3-7-3 皐月マンション2F  
TEL 092-474-4444 FAX 092-481-3068  
<http://www.bell-shotan.co.jp>

### (2) 会社の沿革

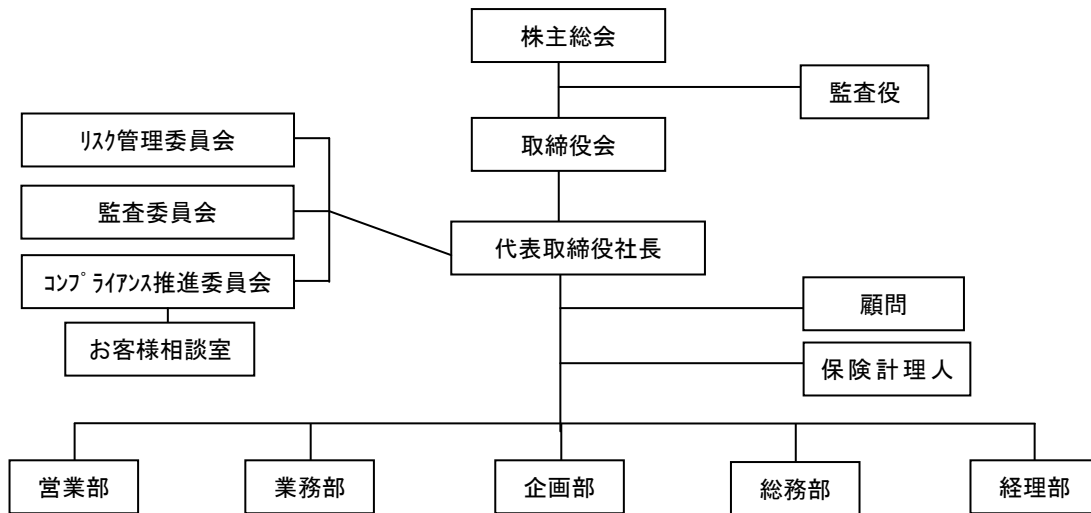
昭和59年 6月 全国の専門葬儀社6社にて葬儀共済の(株)ベル共済を発足  
平成11年 6月 全国セレモニー事業協同組合設立(経済産業大臣認可、全国71社)  
※組合内にトレーニングセンター(トレセン)を開設し社員教育事業を開始  
平成14年11月 加盟支部数150社達成  
平成15年11月 創立20周年記念事業作品劇映画「天国への手紙」製作開始  
平成16年 7月 「天国への手紙」から改題した「千の風になって」を全国公開  
平成18年 4月 改正保険業法施行  
9月 福岡財務支局へ「特定保険業者」の届出完了  
平成20年 2月 ベル共済商品の販売(募集)終了  
3月 共済事業以外の全ての事業を(株)ベルコーポレーションに移管  
3月 少額短期保険業の登録完了《福岡財務支局長(少額短期保険)第1号》  
4月 ベル少額短期保険株式会社に商号変更  
4月 日本生命博多駅前ビルに本社移転  
6月 少額短期保険商品「千の風」販売開始  
9月 少額短期保険商品「千の風」シルバープラン販売開始  
平成21年 4月 第1回全国代理店研修会を開催(世界貿易センタービル)  
6月 少額短期保険商品「千の風保険料一定タイプ」販売開始  
9月 現住所(自社所有物件を改装)に本社移転  
10月 第2回全国代理店研修会を開催(世界貿易センタービル)  
平成22年 2月 「千の風」Web申込開始  
2月 「千の風」契約保有件数5,000件突破  
3月 代理店数100店突破  
4月 第3回全国代理店研修会を開催(世界貿易センタービル)  
5月 「千の風」非対面募集申込開始  
11月 第4回全国代理店研修会を開催(世界貿易センタービル)  
平成23年 1月 少額短期保険募集人700名突破

- 平成23年11月 RGA再保険会社と再保険契約締結
- 平成24年 4月 「千の風保険料一定タイプ1000円プラン」販売開始  
「千の風保険金低額タイプ 50万円プラン」販売開始  
「千の風」シルバープラン販売終了
- 4月 第5回全国代理店研修会を開催（世界貿易センタービル）
- 7月 「千の風」申込書印刷システム運用開始
- 平成25年 4月 支払時情報交換制度運用開始
- 5月 反社会的勢力に対する基本方針の策定
- 6月 第6回全国代理店研修会を開催（世界貿易センタービル）
- 8月 「千の風」契約保有件数10,000件突破
- 平成26年 3月 RGA再保険会社と再保険契約解除
- 5月 特別条件付保険特約の販売開始
- 9月 第7回全国代理店研修会を開催（世界貿易センタービル）
- 平成27年 9月 第8回全国代理店研修会を開催（世界貿易センタービル）

(3) 経営の組織

組織図

平成28年3月31日現在



(4) 株式の状況

①株式数

発行可能株式総数 6,000株  
発行済株式の総数 620株

②株主数

平成26年度末株主数 27名

## ③主要な株主の状況

株主の 氏名又は名称	当社への出資状況	
	持株数等	持株比率
(株)サカエ商事	88 株	14.2%
谷口秀和	88 株	14.2%
猪越行廣	78 株	12.6%
内川隆司	68 株	11.0%
鉄東喬	65 株	10.5%
(有)てんれい	30 株	4.8%
(株)会津屋	27 株	4.4%
松本武司	23 株	3.7%
(株)花安新発田斎場	21 株	3.4%
(株)上越フィネラル	16 株	2.6%
黒川直人	16 株	2.6%
渡津幸夫	15 株	2.4%

※上記株主は、当事業年度の末日において、持株数の多い順序に従い、  
12名を記載しております。

## (5) 役員 の 状況

氏 名	地位及び担当	重要な兼職	そ の 他
波多江利光	代表取締役		
山本和雄	常務取締役	企画部長・業務部長	
田中政博	取締役	総務部長・経理部長	
高野裕之	社外取締役	弁護士	
坂梨正雄	監査役		

## (6) 使用人の状況

区分	平成26年度	平成27年度	当期増減	当期末現在
	当期末	当期末		平均年齢
内務職員	15名	11名	△4名	41歳
営業職員	0名	0名	0名	

## 2. 当社の主要な業務の内容

### (1) 取扱商品

当社では、葬儀費用をサポートする保険商品として「千の風(1年更新型)定期保険」を取り扱っております。

#### 1. 「千の風」保険金定額タイプ

①保障内容 更新時の年齢に応じて保険料が逡増します

死亡保険金 50万円・100万円・200万円・300万円

②加入年齢範囲

15歳から80歳まで（保障は最高99歳まで）

③主な特徴

- ・保険金は定額
- ・加入時の審査は告知だけの簡単手続き
- ・加入年齢が幅広い
- ・迅速な保険金支払い

#### 2. 「千の風」保険料一定タイプ

①保障内容 死亡保険金は更新時の年齢に応じて逡減します

②加入年齢範囲

1,000円プラン 15歳から80歳まで（保障は最高99歳まで）

3,000円プラン 15歳から80歳まで（保障は最高99歳まで）

5,000円プラン 50歳から80歳まで（保障は最高99歳まで）

7,000円プラン 70歳から80歳まで（保障は最高99歳まで）

③主な特徴

- ・保険料は一定
- ・加入時の審査は告知だけの簡単手続き
- ・加入年齢が幅広い
- ・迅速な保険金支払い

### (2) 保険の募集方法について

当社では、主に全国の専門葬儀社が募集代理店となり保険募集を行っております。ご葬儀に関する幅広いご相談等も同時にご説明させていただき、お客様とのコミュニケーションを重視した活動を心がけております。また、ホームページからのWeb申込や非対面申込の受付も行ってまいります。

保険募集を行うにあたっては、以下の点に留意しております。

①広告やお客様へ提案する募集文書の内容および表現について、事前に社内の募集資料審査会の審査を受け、適切な管理のもとで、適正な募集資料に基づき説明を行っています。

②募集代理店・募集人については、「少額短期保険募集人研修機構が実施する試験」に合格後、当社内で実施する、「募集前研修」受講後に監督当局へ登録し、その後募集活動(保険商品の説明を含

む)を開始します。また、募集開始後も定期的に募集状況点検、コンプライアンス研修、教育プログラム等を実施しています。

#### 当社勧誘方針

1. 商品の販売にあたっては、保険業法、金融商品の販売等に関する法律その他の関係法令等を守り、適正な販売に努めてまいります。
2. 商品の販売にあたっては、お客さまに商品内容を十分ご理解いただけるよう、知識の習得、研さんに励み、わかりやすいご説明に努めてまいります。
3. お客さまの商品に関する知識、ご購入目的、財産の状況等を総合的に勘案し、ご意向と実情に沿った商品をご選択いただけるよう努めてまいります。
4. 商品の販売にあたっては、お客さまの立場に立って、時間、場所等について十分配慮するよう努めてまいります。
5. 万一保険事故が発生した場合におきましては、保険金のご請求にあたり適切な助言を行うよう努めてまいります。
6. お客さまのご意見、ご要望等をお聞きし、商品ご提供の参考にさせていただきよう努めてまいります。

#### (3) 保険金等のお支払について

保険金等のお支払は最も重要な業務の一つであり、お支払業務に係る業務体制の整備や組織化に日々努めています。

##### ①お客様相談室の設置

保険金等のお支払に関するご連絡に限らず、ご契約者さまからのご相談等の受付窓口として、お客様相談室にフリーダイヤルを設置して直接ご相談などに迅速に対応する体制を準備しています。

②「千の風」は死亡保障に特化したシンプルな保険であり、保険金等の支払漏れなどの不払い問題が起こるリスクはもとも少ない商品です。さらに、ご不幸のご連絡を受けたにも関わらず、保険金等のご請求を行われていないときは、代理店などを通じてご事情を確認するなどの対応を行っております。

③契約前発病など、保険金のお支払いができない場合があります。その場合は、書面にて事情などを明記のうえ説明をさせていただきます。



### 3. 当社の主要な業務に関する事項

#### (1) 直近の事業年度（27年度）における事業の概況

当社の平成28年3月期の事業概要として、まずガバナンス体制強化を重点取組課題として以下の取組みを進めました。①平成27年4月より常設委員会（リスク管理・監査・コンプライアンス推進）の3委員会の設置をしました。②平成27年7月より新任監査役を迎え、入社日数を月1回から週2回に変更し、取締役会の他重要諸会議にも出席して会計監査および業務監査を強化しました。③平成27年11月より株主代理店様の取締役会へのオブザーバ参加を開始し、取締役会決定プロセスの透明化を図ると共に直接ご意見を賜る機会を設けてまいりました。行政への対応としては、平成28年5月29日施行となりました保険業法改正に向けた体制整備を行いました。又、平成22年ならびに平成26年の金融検査において指摘を受けて積年の経営課題でありました「責任準備金問題」に対する対応につきましては、今決算において一時的な赤字の計上とはなりますが、直前三事業年度の堅調な黒字化による純資産の増加と契約者保護という観点からみた保険会社として将来の保険金支払いという責務を果たすべく、強固な備えを整える意味においても今決算において責任準備金の積み増しをする事が妥当であると判断し処理致しました。販売面では今年度につきましても継続的な目標として①年3回の募集キャンペーンの企画・実施と乗換え推進販売による千の風の拡販、②地域別代理店研修会による情報交流活性化、③新規代理店開拓等を掲げ推進してまいりました。千の風の順調な伸びにより今年度も昨年度を上回る保険料収入となりましたが、責任準備金の一過性の積み増しにより、結果、今期は98百万円の純損失となりました。

主な項目別の実績は下記のとおりです。

- ①保険契約件数の推移について、「千の風」は年間で1,669件増加しましたが、「旧商品」の消滅件数は2,794件となり新旧合計の保有契約件数は1,125件減の38,680件となりました。
- ②保険料収入は「千の風」が409,370千円（前年比114%）、「旧商品」323,824千円（前年比89%）となり、総収入保険料は733,194千円の実績となりました。（前年比102%）
- ③保険金支払は、「千の風」が182,820千円（前年比104%）、「旧商品」128,500千円（前年比93%）となり、合計では311,320千円の実績となりました。（前年比99%）
- ④事業費は、年間実績が311,015千円（前年比98%）となりました。
- ⑤責任準備金は、商品別の積み増し額としては旧商品197,595千円、千の風13,823千円の新旧合計では211,418千円の積み増しを行い、責任準備金は合計で666,809千円となりました。
- ⑥ソルベンシー・マージン比率は1199.9%減少し、2096.1%となりました。

平成27年度は、上記のとおりで責任準備金の積み増しの影響により赤字決算となりましたが、赤字計上は今期に限った一過性のものです。今期も収入保険料は順調な増加基調をみせており来期以降も新契約増を基とした増収を見込んでいます。今後は中・長期的にも一層安定した黒字体質の経営に努めてまいります。

## 財産及び損益の状況の推移

(単位:千円)

区 分		平成 25 年度 (前々期)	平成 26 年度 (前期)	平成 27 年度 (当期)
年度末契約高	個人保険	25,006,510	24,734,030	24,445,510
正味収入保険料 (個人保険)		687,282	717,365	729,735
		687,282	717,365	729,735
利息及び配当金収入		178	308	547
経常利益		89,338	61,163	△98,224
契約者配当準備金繰入額		0	0	0
当期純利益		87,267	54,837	△97,766
総資産		726,183	797,081	892,786
1株当たり当期純利益		140	88	△158

## (2) 直近の3事業年度における主要な業務の状況を示す指標

(単位:千円、人、%)

区 分	平成 25 年度 (前々期)	平成 26 年度 (前期)	平成 27 年度 (当期)	増減額
経常収益	759,188	722,398	741,119	18,721
経常利益	89,338	61,163	△98,224	△159,387
当期純利益	87,267	54,837	△97,766	△152,602
資本の額 (発行済株式の総数)	50,000 (620)	50,000 (620)	50,000 (620)	0
純資産額	269,941	320,725	218,838	△101,887
総資産額	726,183	797,081	892,786	95,705
責任準備金残高	433,960	455,392	666,809	211,418
有価証券残高	199,990	199,997	201,329	1,331
ソルベンシーマージン比率	2632.0	3296.7	2096.1	△1200.6
配当性向	-	-	-	-
従業員数	16	15	11	△4
正味収入保険料の額	687,282	717,365	729,735	12,369

## (3) 直近の2事業年度における業務の状況

## ① 主要な業務の状況を示す指標等(保険種類は死亡保険のみ)

## 1. 正味収入保険料および元受正味保険料

(単位:千円、%)

区 分	平成 26 年度 (前期)		平成 27 年度 (当期)	
	金額	構成比	金額	構成比
正味収入保険料	717,365	100	729,735	100
元受正味保険料	717,365	100	729,735	100

## 2. 支払再保険料 (単位:千円、%)

区 分	平成 26 年度 (当期)		平成 27 年度 (当期)	
	金額	構成比	金額	構成比
支払再保険料	0	-	0	-

## 3. 保険引受利益 (単位:千円、%)

区 分	平成 26 年度 (前期)		平成 27 年度 (当期)	
	金額	構成比	金額	構成比
死亡保険	102,802	100	121,204	100

## 4. 正味支払保険金および元受正味保険金額 (単位:千円、%)

区 分	平成 26 年度 (前期)		平成 27 年度 (当期)	
	金額	構成比	金額	構成比
正味支払保険金	312,440	100	311,320	100
元受正味保険金	314,190	100	311,320	100

## 5. 回収再保険金額 (単位:千円、%)

区 分	平成 26 年度 (前期)		平成 27 年度 (当期)	
	金額	構成比	金額	構成比
回収再保険金額	1,750	100	0	100

## ②保険契約に関する指標等

## 1. 契約者配当金

該当事項はございません。

## 2. 正味支払率(損害率)及び正味事業比率およびその合算率 (単位:%)

区 分	平成 26 年度 (前期)			平成 27 年度 (当期)		
	正味支払率	正味事業比率	合算率	正味支払率	正味事業比率	合算率
死亡保険	43.6	44.2	87.8	42.7	42.6	85.3
その他	-	-	-	-	-	-
合 計	43.6	44.2	87.8	42.7	42.6	85.3

## 3. 再保険に付した部分の控除を考慮しない発生支払額(損害額)および支払(損害)調査費の合計額の既経過保険料に対する割合及び事業費の既経過保険料に対する割合ならびにその合算率 (単位:%)

区 分	平成 26 年度 (前期)			平成 27 年度 (当期)		
	発生支払率	事業比率	合算率	発生支払率	事業比率	合算率
死亡保険	43.8	44.2	88.0	42.7	42.6	85.3
その他	-	-	-	-	-	-
合 計	43.8	44.2	88.0	42.7	42.6	85.3

## 4. 保険契約を再保険に付した場合における当該再保険を引き受けた主要な保険会社等の数

区 分	平成 26 年度（前期）	平成 27 年度（当期）
出再再保険会社数	0 社	0 社

 5. 保険契約を再保険に付した場合における当該再保険を引き受けた保険会社等のうち支払再保険料の額が大きいことにおいて上位を占める保険会社等に対する支払再保険料の割合  
 （単位：％）

区 分	平成 26 年度（前期）	平成 27 年度（当期）
上位 5 社に対する 支払再保険料の割合	-	-

 6. 保険契約を再保険に付した場合における当該再保険を引き受けた主要な保険会社等の  
 指定格付機関又は海外においてこれと同等の実績を有する格付機関による格付に基づく  
 区分後の支払保険料の割合  
 （単位：％）

区 分	平成 26 年度（前期）	平成 27 年度（当期）
各付けごとの 再保険料の割合	AA-	-

 7. 未だ收受していない再保険金の額  
 （単位：千円）

区 分	平成 26 年度（前期）	平成 27 年度（当期）
未回収再保険金	0	0

## ③経理に関する指標等

 1. 支払備金  
 （単位：千円、％）

区 分	平成 26 年度（前期）		平成 27 年度（当期）	
	金額	構成比	金額	構成比
死亡保険	24,164	100	16,847	100
その他	-	-	-	-
合 計	24,164	100	16,847	100

 2. 責任準備金  
 （単位：千円、％）

区 分	平成 26 年度（前期）		平成 27 年度（当期）	
	金額	構成比	金額	構成比
死亡保険	455,392	100	666,809	100
その他	-	-	-	-
合 計	455,392	100	666,809	100

## 3. 利益準備金及び任意積立金の区分ごとの残高

(単位:千円)

平成 26 年度 (前期)		平成 27 年度 (当期)	
利益準備金	任意積立金	利益準備金	任意積立金
2,788	13,600	3,175	27,671

任意積立金は特別施行保証債務積立金

## 4. 支払率(損害率)の上昇に対する経常利益または経常損失の額の変動資産に関する指標

Ⅰ. 上昇率 発生支払率(損害率)が1%上昇すると仮定

Ⅱ. 算出方法

$$\text{経常利益の減少額} = \text{発生支払額(損害額)の増加額} = \text{正味収入保険料} \times 1\%$$

Ⅲ. 経常利益の減少額 7,297千円

## ④資産運用に関する指標等

## 1. 資産運用の概況

(単位:千円、%)

区 分	平成 26 度 (前期)		平成 27 年度 (当期)	
	金額	構成比	金額	構成比
現預金	431,180	54.1	527,801	59.1
金銭信託	-	-	-	-
国債	199,997	25.1	201,329	22.6
地方債	-	-	-	-
政府保証債	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
運用資産計	630,937	79.2	728,921	81.6
総資産	797,081	100	892,786	100

## 2. 利息及び配当金収入ならびに運用利回り

(単位:千円、%)

区 分	平成 26 年度 (前期)		平成 27 年度 (当期)	
	収入金額	利回り	収入金額	利回り
現預金	101	0.03	127	0.03
金銭信託	-	-	-	-
国債	207	0.10	420	0.21
地方債	-	-	-	-
政府保証債	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
運用資産計	308	0.05	547	0.08

## 3. 保有有価証券の種類別の残高、構成比、利回りおよび残存期間別残高

(単位:千円、%)

種 類	残高	構成比	利回り	償還日
①利付国債(10年)	100,610	50.0	0.4	平成 2025 年 9 月 20 日
②利付国債(10年)	100,780	50.0	0.4	平成 2025 年 9 月 20 日

## (4) 責任準備金の残高内訳

(単位:千円)

区 分	普通責任 準備金	異常危険 準備金	契約者配当 準備金等	合計
死亡保険	652,478	14,332	-	666,809
その他	-	-	-	-
合 計	652,478	14,332	-	666,809

※保険業法に基づいて当局へ届け出た「保険料および責任準備金の算出方法書」に定める方法により算出しております。

## 4. 当社の運営に関する事項

### (1) リスク管理の体制

「リスク管理規程」を定め、リスク管理部門であるリスク管理委員会より取締役会へ定期的に報告をおこなうこととし、取締役会が適切に判断できるようにしております。

### (2) 法令遵守の体制

#### ① 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

「取締役会規程」「諸規程管理規程」「稟議規程」「文書保存規程」などの社内規程に基づき、取締役会の議事録並びにそれらの資料、稟議書等の重要書類を適切に保存・管理しています。

#### ② 取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するために、取締役会を毎月開催し、法令、定款に定めのある事項その他経営に関する重要事項について、審議し、報告を受けて、監督機能の強化に努めています。

#### ③ 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

(イ) 取締役会は、取締役もしくは必要に応じて部門長より定期的に業務執行状況の報告を受けています。取締役会は、経営・業績に重要な影響を及ぼす事項が生じたときは、監査役に対し、適時報告を行うこととしています。

(ロ) コンプライアンス(法令遵守)体制確立のため、コンプライアンス推進委員会を設置しており、お客様相談室も管轄した体制を確立しています。

(ハ) コンプライアンス・リーダー会議を毎月開催し、全社員へコンプライアンスの徹底を図っています。

(ニ) 不祥事案があった場合の対応については、「不祥事案等に関する規程」を定め、役職員による不祥事案が発生したときの適正かつ迅速な対応方法について規定しています。また不祥事故を行った者及びこれらの管理監督者に対しては、「不祥事故賞罰基準」に従い、適切な措置又は処分を行うこととしています。

#### ④ 当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

該当事項はございません

#### ⑤ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社は、公共の秩序や安全を脅かす反社会的勢力や団体からの不当な要求等を一切排除することとしています。その整備状況として、「就業規則」や「反社会的勢力の対応に関する規程」等において、反社会的勢力との関係遮断を明文化し周知徹底しています。また、平素より関係行政機関などからの情報収集に努め、事案の発生時には速やかに担当部署へ報告・相談するとともに、関係行政機関や顧問弁護士と緊密に連携して適切に対処する体制を構築しています。

#### ⑥ 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他監査役への報告に関する体制

(イ) 監査役は、取締役会その他の社内重要会議に出席し、あるいは会議議事録その他資料を閲覧して情報収集を行うことができます。



(ロ) 監査役は、年度中社内の各部門から、その業務に関する報告を聴取し、業務執行内容を監査できる体制としています。

(ハ) 監査役は、上記のほか必要に応じて、取締役・役職員に対し業務報告を求めることができます。

⑦監査役の監査が実行的に行われることを確保するための体制

(イ) 監査役が、取締役会その他の社内重要会議に出席するほか、会社の業務執行内容を定期的に監査するにあたり、その機会を確保し、職務補助にあたらせる者を指名するなど、取締役の職務執行に対する監査役監査が充分に行えるよう、取締役会は配慮しています。

(ロ) 監査役と取締役との定期的な意見交換の場を設け、監査役の意見を経営判断に適正に反映させる機会を確保しています。

(3)お客様対応

当社はお客様からお申し出いただいた苦情等につきましては、解決に向けて真摯な対応に努める所存でございます。尚、お客様の必要に応じ、一般社団法人日本少額短期保険協会が運営し、当社が契約する(指定紛争解決機関)「少額短期ほけん相談室」をご利用いただくことができます。

「少額短期ほけん相談室」の連絡先は以下のとおりです。

〒104-0032

東京都中央区八丁堀3-12-8 HF八丁堀ビルディング2階

電話番号／0120-82-1144 Fax 03-3297-0755

受付時間／9:00~12:00、13:00~17:00

受付日／月曜日から金曜日（祝日および年末年始休業日を除く）



## 5. 当社の直近2事業年度における財産の状況に関する事項

## (1) 計算書類

## ① 貸借対照表

## 貸借対照表

第32期 平成28年3月31日 現在

(単位:千円)

科目	当期(31期)	当期(32期)	増減	科目	当期(31期)	当期(32期)	増減
(資産の部)				(負債の部)			
(現金及び預貯金)	431,180	527,801	96,621	(保険契約準備金)	479,555	683,656	204,101
現金	241	208	△ 32	支払備金	24,164	16,847	△ 7,317
預貯金	430,940	527,592	96,653	責任準備金	455,392	666,809	211,418
(有価証券)	199,997	201,329	1,331	(再保険借)	0	0	0
国債	199,997	201,329	1,331	(その他負債)	11,377	4,624	△ 6,754
(有形固定資産)	86,151	85,640	△ 511	未払金	10,642	3,848	△ 6,794
土地	73,337	73,337	0	預り金	735	775	40
建物	6,632	6,334	△ 298	(東日本大震災引当金)	0	0	0
その他の有形固定資産	6,182	5,969	△ 213	(価格変動準備金)	40	40	0
(無形固定資産)	20,159	16,145	△ 4,014	負債の部合計	490,972	688,320	197,347
ソフトウェア	19,218	15,204	△ 4,014	(純資産の部)			
その他の無形固定資産	941	941	0	(資本金)	50,000	50,000	0
(再保険貸)	0	0	0	(利益剰余金)	256,109	154,466	△ 101,643
(その他資産)	14,593	16,871	2,278	利益準備金	2,788	3,175	388
前払費用	419	386	△ 33	その他利益剰余金	253,321	151,291	△ 102,030
預託金	54	54	0	特別施行保証債務積立金	13,600	27,671	14,071
仮払金	0	0	0	繰越利益剰余金	239,721	123,619	△ 116,102
その他の資産	14,120	16,431	2,311	株主資本合計	306,109	204,466	△ 101,643
(供託金)	45,000	45,000	0	純資産の部合計	306,109	204,466	△ 101,643
資産の部合計	797,081	892,786	95,705	負債及び純資産の部合計	797,081	892,786	95,705

## 【貸借対照表に関する注記】

## 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

## 1-1 資産の評価基準及び評価方法

## (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的有価証券は焼却原価法(定額法)を採用しています。

## (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

パンフレットは最終仕入原価法を採用しています。

1-2 固定資産の減価償却の方法

- (1)有形固定資産 定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く。)は定額法)を採用しています。
- (2)無形固定資産 定額法を採用しています。

1-3 計算書類作成のための重要な事項

リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

2. 貸借対照表に関する注記

2-1 責任準備金の積立てについて

今期、平成 26 年の金融庁検査時において改善事項の 1 つでありました旧商品における「保険料および責任準備金の算出方法書」の変更を行いました。改訂された責任準備金の計算の結果、損益計算書に責任準備金繰入額(旧商品)として 198,558 千円の計上(積み増し)となりました。これにより貸借対照表の今年度末の責任準備金残高は 666,809 千円(旧商品 597,758 千円、千の風 69,051 千円)となりました。

2-2 利益剰余金に関する事項

【特別施行保証債務積立金】

前年度末、特別施行保証債務積立金を、繰越利益剰余金の中から目的積立金として、13,600 千円積立っていたが、これより今年度中の特別施行実支払額 2,129 千円を差引き、今年度末現在のリスク額の必要積立金額 16,200 千円を積み増した結果、27,671 千円が、今年度末の特別施行保証債務積立金の残高となった。

【利益準備金】

会社法 445 条 4 項により第 31 期剰余金配当金総額 3,877 千円の 10 分の 1(387 千円)を利益準備金として積み立てた。

3. その他の注記

有形固定資産の減価償却累計額 27,704千円

## ②損益計算書

## 損益計算書

第32期

自 平成27年4月 1日

至 平成28年3月31日

(単位:千円)

科 目	当期(31期)	当期(32期)	増減
<b>(経常収益)</b>	<b>722,748</b>	<b>741,706</b>	18,958
(保険引受収益)	<b>722,051</b>	<b>733,194</b>	11,143
保険料	720,301	733,194	12,893
・ 旧商品	362,118	323,824	△ 38,294
・ 千の風	358,183	409,370	51,187
回収再保険金	1,750	0	△ 1,750
(資産運用収益)			
利息及び配当金等収入	308	547	239
(責任準備金等戻入額)			
支払備金戻入額	174	7,660	7,487
責任準備金戻入額	176	244	68
(その他経常収益)	39	61	22
(大震災引当金戻入)	0	0	0
<b>(経常費用)</b>	<b>661,585</b>	<b>839,930</b>	<b>178,345</b>
(保険引受費用)	<b>317,126</b>	<b>314,779</b>	<b>△ 2,346</b>
保険金等	314,190	311,320	△ 2,870
・ 旧商品	138,000	128,500	△ 9,500
・ 千の風	176,190	182,820	6,630
その他返戻金	2,936	3,459	524
再保険料	0	0	0
(責任準備金等繰入額)	<b>24,370</b>	<b>212,005</b>	<b>187,634</b>
支払備金繰入額	2,763	343	△ 2,420
責任準備金繰入額	21,607	211,662	190,055
(資産運用費用)	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>2</b>
支払利息	0	2	2
(事業費)	<b>317,285</b>	<b>311,015</b>	<b>△ 6,270</b>
営業費及び一般管理費	302,123	297,210	△ 4,913
税金	1,140	1,274	134
減価償却費	14,022	12,531	△ 1,491
(その他の経常費用)	<b>2,803</b>	<b>2,129</b>	<b>△ 675</b>
<b>経常利益(経常損失)</b>	<b>61,163</b>	<b>△ 98,224</b>	<b>△ 159,387</b>
(特別利益)	<b>2,425</b>	<b>2,400</b>	<b>△ 25</b>
価格変動準備金戻入額	0	0	0
その他特別利益	2,425	2,400	△ 25
(特別損失)	<b>7,097</b>	<b>142</b>	<b>△ 6,955</b>
価格変動準備金繰入額	0	0	0
固定資産等処分損	299	0	△ 299
その他特別損失	6,798	142	△ 6,656
<b>税引前当期純利益</b>	<b>56,490</b>	<b>△ 95,966</b>	<b>△ 152,456</b>
法人税及び住民税	1,654	1,800	146
<b>当期純利益(当期純損失)</b>	<b>54,837</b>	<b>△ 97,766</b>	<b>△ 152,602</b>

【損益計算書に関する注記】

1. 収入及び費用に関する内訳

(1) 正味収入保険料

保 険 料	733,194 千円
解約返戻金等(その他返戻金)	△ 3,459 千円
再保険料	0 千円
	<hr/>
	729,735 千円

(2) 正味支払保険金

支払保険金	311,320 千円
回収再保険金	0 千円
	<hr/>
	311,320 千円

(3) 責任準備金等戻入額

支払備金戻入額	7,317 千円
---------	----------

(4) 責任準備金等繰入額

責任準備金繰入額	211,418 千円
----------	------------

(5) 利息及び配当金収入

預貯金利息	127 千円
有価証券利息・配当金	420 千円
	<hr/>
	547 千円

2. 1株当たりの当期純利益

△ 157,686円70銭

## ③キャッシュ・フロー計算書

## 平成27年度 キャッシュ・フロー計算書

 [ 平成 27 年 4 月 1 日 から  
平成 28 年 3 月 31 日 まで ]

(単位:千円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前当期純利益(△は損失)	△ 95,966
減価償却費	12,531
繰延資産償却費	0
支払備金の増加額(△は減少)	△ 7,317
責任準備金の増加額(△は減少)	211,418
価格変動準備金の増加額(△は減少)	0
利息及び配当金等収入	0
有価証券関係損益(△は益)	61
有形固定資産関係損益(△は益)	0
その他資産(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額(△は増加)	△ 1,242
その他負債(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額(△は減少)	△ 6,203
その他	0
小 計	<b>113,282</b>
法人税等の支払額	△ 1,800
営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>111,482</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	
預貯金の純増減額(△は増加)	△ 14
有価証券の取得による支出	199,997
有価証券の売却・償還による収入	△ 201,390
無形固定資産の取得による支出	△ 8,006
その他	△ 1,036
投資活動によるキャッシュ・フロー	<b>△ 10,448</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	△ 4,427
その他	
財務活動によるキャッシュ・フロー	<b>△ 4,427</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	<b>96,607</b>
現金及び現金同等物期首残高	330,893
現金及び現金同等物期末残高	427,500

## ④株主資本等変動計算書

## 株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本								評価・換算差額等					新株 予約権	純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己 株式	株主資本合 計	その他 有価証 券評価 差額金	繰延 ヘッジ 損益	土地再 評価差 額金			評価・ 換算差 額等 合計
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他 利益剰余金		利益 剰余金 合計								
						特別施行 保証債務 積立金	繰越利益 剰余金									
当期首残高	50,000				2,788	13,600	239,721	256,109		306,109						306,109
当期変動額																
新株の発行																
剰余金の配当					388		△ 4,265	△ 3,877		△ 3,877						△ 3,877
当期純利益							△ 97,766	△ 97,766		△ 97,766						△ 97,766
自己株式の処分																
特別施行保障 リスク積立 (繰入)						△ 2,129	2,129	0		0						0
特別施行保障 リスク積立 (戻入)						16,200	△ 16,200	0		0						0
株主資本以外の 項目の当事業年度 変動額(純額)																
当期変動額合計	0				388	14,071	△ 116,102	△ 101,643		△ 101,643						△ 101,643
当期末残高	50,000				3,175	27,671	123,619	154,466		204,466						204,466

## (2) 保険金等の支払能力の充実の状況

(単位: 千円、%)

	前期	当期
(1) ソルベンシー・マージン総額	275,667	173,965
① 純資産の部合計(社外流出予定額、評価・換算差額等及び繰延資産を除く。)	306,109	204,466
② 価格変動準備金	40	40
③ 異常危険準備金	14,576	14,332
④ 一般貸倒引当金	-	-
⑤ その他有価証券の評価差額(税効果控除前)(99%又は100%)	10	△ 61
⑥ 土地含み損益(85%又は100%)	△ 45,068	△ 44,812
⑦ 契約者(社員)配当準備金	-	-
⑧ 将来利益	-	-
⑨ 税効果相当額	-	-
⑩ 負債性資本調達手段等	-	-
告示(第14号)第2条第3項第5号イに掲げるもの(⑩(a))	-	-
告示(第14号)第2条第3項第5号ロに掲げるもの(⑩(b))	-	-
⑪ 控除項目(-)	-	-
(2) リスクの合計額 $\sqrt{[R_1^2+R_2^2]}+R_3+R_4$	16,723	16,598
保険リスク相当額	14,576	14,332
R1 一般保険リスク相当額	14,576	14,332
R4 巨大災害リスク相当額	-	-
R2 資産運用リスク相当額	7,266	7,471
価格変動等リスク相当額	5,998	5,997
信用リスク相当額	1,268	1,474
子会社等リスク相当額	-	-
再保険リスク相当額	-	-
再保険回収リスク相当額	-	-
R3 経営管理リスク相当額	437	436
ソルベンシー・マージン比率 (1)/{(1/2)×(2)}	3296.7%	2096.1%

## (3) 有価証券または金銭の信託に関する取得価額または契約価額、時価及び評価損益

## ① 有価証券

- 1) 利付国債(10年)取得価額 100,610(千円)
- 2) 利付国債(10年)取得価額 100,780(千円)

## ② 金銭の信託

該当事項はございません。

## (4) 公衆の縦覧に供する書類に関する会計監査人の監査の有無

会計監査人の監査は受けておりません。

## (5) 貸借対照表、損益計算書および株主資本等変動計算書に関する公認会計士または監査法人の監査証明書の有無

金融商品取引法第193条の2の規定に基づく公認会計士または監査法人の監査を受けておりません。なお、当事業年度の財務諸表につきましては、監査役による監査を受け、適正に作成および表示されていることの報告を受けております。

(平成28年5月27日付 監査役報告書)



登録番号 福岡財務支局長（少額短期保険）第1号

所在地 : 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 3-7-3 皐月マンション 2F

TEL 092-474-4444 FAX 092-481-3068

<http://www.bell-shotan.co.jp>